

湘現会ありがとう

田中 毅

私は、平成六年に定年となるや、念願だった自由の身となり、暫くは各地を旅行していましたが、そのうち何となく時間の空白感を感じるようになった時、「湘南生涯現役の会」に出会いました。

またその頃、私は趣味の随筆や小説を書き始め、当時ワープロという便利な道具が世に出ていて愛用しました。ところが程なく、より便利なパソコンが出現。しかし扱いが難しそうで、ためらっていたところ、湘現会にパソコンを教えてくれる「パソ好会」なるサークルがあることを知り入会。パソコン経験のあった人達から、懇切にパソコンの手ほどきを受け、そこで初めて、パソコンという素晴らしいもの書きの道具を知りました。

それからはパソコンの学習に熱中。小説を書きながら、「パソ好会」の講師役を引き継いだり、初心者対象の市民講座の講師を引き受けたり、湘現会のホーム・ページの立ち上げに参画し、その後のメンテナンスを担当したりしました。その後もパソコンは、私の良き伴侶となり、この十数年来居住マンションでの会員誌「かわら版」の編集を続けるなど、退職後の人生を充実させてくれ、その意味で湘現会との出会いは、私にとって、まさに「生涯現役」との出会いでした。パソコンの一般的な普及と共に、その後湘現会の「パソ好会」はなくなったようですが、今でもホーム・ページに当時の面影を見ます。

十数年前、私は現在のヘルスケア・マンションに転居。そこでもマンション内でのいろいろなグループ活動があったり、上記「かわら版」の編集作業があったりした関係上、湘現会とは少し疎遠になりましたが、懐かしい湘現会のメンバーと自由に懇談できる新年会や「なべの会」には、つとめて出席するようにしております。

湘現会の行事で、特に印象に残っているのは、今でも「なべの会」では、堀河さん達が、その準備や作業にご苦労されているのですが、当初は「歩こう会」と「なべの会」が合体していて、私達は小分けされた食材を運ぶだけですが、世話役の都築さん、小林さん、桑原さん達は、かさばって重い「なべ」の道具類を背負って、長い道のりや山登りをして運んでくれ、頭の下がる思いでした。私の特に印象に残っているのは、私が初めて参加した、大山（おおやま）の山頂で催された「なべの会」でした。

灘上初代代表直伝の「気功」のほか、「なべの会」「歩こう会」「写真同好会」など、当時のいろいろな楽しい思い出とは反対に、少し辛かった印象に残っているのは、例会での講演会のテープ起こしでした。当時世話役だった渡辺さん（のちの第二代代表）の依頼で、毎回の講演内容の完全なテープ起こしをし、全文を「湘現会」会報に掲載していました。しかし、講演内容全文のテープ起こしは大変な作業で、数年で勘弁してもらい、結局その後は、会報への講演内容の掲載は取りやめになりました。いずれにしても、湘現会の初期の十年は、私にとって大変思い出に残る十年でした。